

# 日本放送協会 理事会議事録

(平成27年12月15日開催分)

平成28年 1月 8日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

平成27年12月15日(火) 午前9時00分～9時25分

<出席者>

榑井会長、堂元副会長、塚田専務理事、吉国専務理事、板野専務理事、  
福井専務理事、森永理事、井上理事、浜田技師長、今井理事、  
坂本理事、安齋理事  
上田監査委員

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

榑井会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

## 1 審議事項

(1) 第1251回経営委員会付議事項について

## 2 報告事項

(1) 2015年11月全国個人視聴率調査の結果について

議事経過

## 1 審議事項

### (1) 第1251回経営委員会付議事項について

(経営企画局)

12月22日に開催される第1251回経営委員会に付議する事項について、審議をお願いします。

付議事項は、議決事項として「中央放送番組審議会委員の委嘱について」です。また、審議事項として、前回付議しなかった「平成28年度収支予算編成要綱」です。さらに、報告事項として「契約・収納活動の状況(平成27年11月末)」、「予算の執行状況(平成27年11月末)」、および「地方放送番組審議会委員の委嘱について」です。

(会長) 原案どおり決定します。

## 2 報告事項

### (1) 2015年11月全国個人視聴率調査の結果について

(放送文化研究所)

2015(平成27)年11月に実施した、全国個人視聴率調査の結果について報告します。

調査は11月9日月曜日から15日日曜日までの1週間、全国の7歳以上の男女3,600人を対象に、配付回収法による24時間時刻目盛り日記式(個人単位)で実施しました。有効数は2,410人、有効率は66.9%でした。調査週の状況は、火・水曜日に国会中継がありました。また、ニュースとしては、土曜日早朝に鹿児島県西方沖を震源とする地震による津波注意報の発表と、フランス・パリでの同時テロがありました。スポーツでは、民放で水・木・土・日曜日に「世界野球WBSCプレミア12」が放送されたほか、木曜日に「2018FIFAワールドカップロシア」アジア2次予選の日本代表戦が放送されました。

テレビ視聴時間の推移を見ると、NHKと民放の地上波・衛星波を合わせたテレビ総計は3時間40分で、10年前(2005年)からやや短くなってきています。NHK総計は横ばいで推移していますが、11月の調査では初めて1時間を切り、59分でした。一方で、民放総計は2時間41分と、10年前からやや短くなってきていますが、ほぼ横ばいで

推移しています。

テレビ全体の視聴時間を男女年層別に10年前と比べてみると、60代・70歳以上といった高年齢層ほど視聴時間が長くなるという傾向は変わりませんが、10年前と比べるとほぼ全ての年層で、減少傾向が見られます。NHKと民放に分けて内訳を見ると、もともとNHKを見る時間が短めな若年層では、NHKの視聴時間にはあまり変化がみられませんが、比較的NHKをよく見ている50代以上では、NHKの視聴時間が短くなる傾向が見られます。また、民放は40代以下の視聴時間が短くなる傾向にあります。

週間接触者率の長期推移を見ると、総合テレビの週間接触者率は56.6%で、前年と同程度で、この20年では最も低い水準となりました。NHKの地上波と衛星波を合わせたNHKテレビ総計は、64.8%で、これも最も低い水準です。民放地上波計は2010年から、NHKと民放の地上波と衛星波すべてを合わせたテレビ総計は、2012年からそれぞれ漸減傾向でしたが、今回は横ばいとなりました。

総合テレビの男女年層別の週間接触者率を見ると、男30代と女50代で前年より減少し、前々年並みとなりました。また、女40・60代で前々年より減少の動きがあります。今年6月の調査と同様に、男女40代以下すべてで50%を切り、男女60代で80%を切りました。

総合テレビの見られ方について、全国で平日1日の30分ごとの平均視聴率の動きを見ていきます。平日の朝・昼・夜のそれぞれで、前年、前々年から視聴率が低下しています。具体的には、朝6時台前半と7時台、昼12～13時台前半、および夜間18～21時台で、それぞれ減少しています。

関東および関東・近畿以外の地域について、同じく総合テレビの平日1日の30分ごとの平均視聴率の動きを見ると、関東は前年、前々年からあまり変化がありません。一方、関東・近畿以外の地域では、前年、前々年からの減少幅が大きくなっています。

総合テレビでよく見られた番組は、連続テレビ小説「あさが来た」で16.1%でした。そのほか例年上位の「ニュース7」と、昨年を引き続き「大相撲九州場所」がよく見られました。上位番組10位以内のうち、視聴率が10%以上の番組は、2本と少なくなっています。

関東・近畿共に、NHK・民放を含めて最もよく見られた番組は「あ

さが来た」で、関東は16.4%、近畿は14.6%でした。民放の番組では、関東では、日本テレビの日曜日夜間の番組などがよく見られました。民放のドラマが上位10番組に1本も入りませんでした。近畿では、民放のバラエティーやドラマのほか、「世界野球WBSCプレミア12」がよく見られ、放送された4試合すべてが上位10番組に入りました。

総合テレビの時間帯別の週間接触者率の推移を見ると、夜間（18～24時）は、2010年以降横ばいで推移していましたが、今年は45.2%と前年より減少したことから、夜間の減少が総合テレビの週間接触者率に大きく影響したことがわかります。また、午後（12～18時）も、2012年以降減少傾向にあります。

総合テレビのゴールデンタイム（19～22時）の接触者率について曜日ごとの累積を見ると、前年は日曜日に5%積み上げて45%となり、前々年の数字と同じになりましたが、今年は平日の推移が低めであったうえに、日曜日の積み上げは2%だったため、39%にとどまりました。

今回の視聴率が下がった夜間のニュースを見ると、「NHKニュース7」の視聴率は、全体では10.1%で、前々年から徐々に減少しています。男女年層別にみると、男70歳以上と女40代は前々年より減少しました。女70歳以上は、前年から減少傾向にあります。「ニュースウォッチ9」は、全体では5.2%で、前年から今年にかけて減少傾向です。男女年層別にみると、男70歳以上は前々年から徐々に減少していて、女40代は前年から減少傾向にあります。

次に、Eテレの結果です。

この10年間のEテレの週間接触者率の推移を見ると、前年に25.1%に減少した接触者率は、今回は26.8%とやや回復しました。年層別にみると、7～12歳の子どもで前年の44%から54%にやや増加しています。

平日のEテレの30分ごとの平均視聴率を見ると、朝7時台前半や、夕方17時台後半～18時台でよく見られています。7～12歳では、有意差はないものの、朝7時台と夕方17～18時台前半で前年より回復しています。

続いて、衛星放送です。

自宅で衛星放送を見ることができると答えた人の割合は、前年とほぼ同様の50.2%で、半数の人が見られる状況にあります。衛星各波の週

間接触者率の推移をみると、BS1は9.4%と、前年よりやや回復し、前々年（9.3%）と同程度となりました。一方、BSプレミアムは11.7%と、前年（14.2%）より減少しています。

BS1の週間接触者率を男女年層別に見ると、男70歳以上で前年より増加し、前々年と同程度となりました。テニスの錦織選手の試合などのスポーツのほか、「BS1スペシャル・戦争を継ぐ」がよく見られました。

BSプレミアムの週間接触者率を男女年層別に見ると、女20・40代・70歳以上で、前年より減少しています。30分ごとの平均視聴率をみると、日曜日の19時台後半～22時台で前年より減少しています。

最後に、ラジオです。

ラジオ各波の週間接触者率の10年間の推移を見ると、NHKと民放を合わせたラジオ全局計は36.5%で、2012～2013年にかけて減少しましたが、その後は横ばいです。NHKラジオ計は19.6%で、ラジオ第1・ラジオ第2・FM共に横ばいでした。ラジオ第1でよく聴かれているのは、例年同様、ラジオ体操や朝のニュースなどでした。

（板野専務理事） 全体的に非常に落ち込んでいる中で、特にテレビ視聴時間がこれまでになく悪いので、深刻に受け止める必要があると思います。来年度の番組改定については、終盤に入りつつありますが、平日夜間帯を抜本的に見直して、こうした低落傾向に歯止めをかけていきたいと思っています。

（会 長） NHKだけでなく、テレビ全体の視聴時間が減っているのも、日本人の生活パターンの変化の影響も大きいと思いますが、テレビ視聴の代わりに何が増えているのかという分析はありますか。

（放送文化研究所） 恐らく、特に若年層でインターネット利用などが増えていると考えられますが、今回の調査ではわかりません。今後、別の調査でご報告させていただきたいと思っています。

（安齋理事） 反省も込めて申し上げますと、これまでも現役世代の視聴が離れていることに気づきつつも、世帯視

聴率の高さに隠れている都合の悪いことを見ないようにしていたところがあったと思います。これから現役世代にも見てもらえるように大きくシフトしていかなければならないのですが、短期間で成果が出るような簡単なものではないと思っています。これまでNHKを支持してくださっている高齢者層を大切にしつつ、NHKを離れてしまった人に戻って来てもらえるような取り組みをしていきたいと思えます。

(会 長)                    ぜひ、実行をお願いします。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

平成28年 1月 5日

会 長    靱 井 勝 人